

---

# 経営学関係学部・学科における 教育活動の「特色」とその傾向

——東京都・神奈川県下の私立大学の'99年度『大学案内』より——

鈴木 そよ子

---

## はじめに

大学設置基準の大綱化と並行して、各大学の「個性」が強く求められている今日、それぞれの大学・学部・学科では、自らの教育活動の「特色」をどのように捉えているのだろうか。どのような点に力点を置いた教育活動を展開しようとしているのだろうか。

このような問題意識に基づいて、大学の現状についての調査をはじめた。本稿では、その第一段階の報告として、'99年度『大学案内』紙上の大学の教育活動の紹介から見出すことのできる「特色」の傾向を整理し、検討する。大学自らが捉えている学部・学科の「特色」を知る資料として『大学案内』を選んだのは、大学・学部・学科の教育の特徴を明確に描き出し、アピールするために作成されたものが『大学案内』であるからである。学部・学科の教育活動のなかから、大学や学部が特に強調したいポイント、あるいはキー・コンセプトを把握するために最適な資料だと考えた。

『大学案内』からわかるのは、学部・学科の教育活動の一部分に過ぎないが、この点は問題としない。ある大学の『大学案内』で、「特色」として大き

く取り上げられている教育活動が、他の大学の『大学案内』では、同様な教育活動を行っていないながらも、省略されている場合もあるだろう。また、内容の細部については説明のない場合もある。したがって、本稿で整理、分析していることが、教育活動のすべてではないという点を確認した上で、本稿では、大学・学部自らが何を「特色」と見ているのかという視点から『大学案内』を検討する。

検討対象は、私立大学のうち、東京都・神奈川県下の大学に焦点をあて、さらに学部選択については、経営学関係学部・学科に絞った。地域的な設定については、本学との環境、状況、条件の共有性に重点を置き、学部・学科の設定については、本学部との関連性を重視した。検討対象となる大学数は32校。これらの大学には、経営学あるいは国際経営学を学ぶ課程が、学科あるいはコースとして設置されている。これらの他にも、情報科学や国際関係学関係の学部のなかに、経営学に関係する学科・コースが設置されている場合もあるが、今回の検討対象とはしていない。

本稿において「教育活動」は、科目を中心とした教育内容・方法に限らず、学生が関わる行事や国際交流も含めて、学部・学科の営みに関わる事柄を広く含む言葉として用いる。

本稿で「特色」として整理している項目と『大学案内』の記述の関係については、その多くが、各大学の『大学案内』において、「特色」や「特徴」と題されてまとめられている内容である。ただ、『大学案内』の形式は多様であり、必ずしもこのように明確にまとめられていない場合は、筆者の判断により記述内容を整理・分類した。さらに、「学部教育の特色」とまとめられていても、教育理念のレベルでまとめられているものから、カリキュラムや教育実践レベルでまとめられているものまで多様であり、記述内容によって、できるだけ共通のレベルの内容で比較できるように整理した。

学部・学科の「特色」を整理する上での判断の難しさは、まず大学全体の教育体制の共通基盤があり、それに基づいて学部教育があり、さらに学科教

育があるため、広く特徴を捉えようとする、大学全体の教育体制の比較にならざるを得ない点にある。この点に関して、今回の調査では、学科教育を中心に置き、更に学部教育、これらとの関連でどうしても欠かせない内容について、全学の体制も検討対象とするという方法をとった。

本論では、まず教育活動の「特色」の傾向を概観し、そのなかから、調査対象学部・学科の共通した傾向であるカリキュラムの自由性・融通性、少人数教育と演習、セメスター制度について資料を提示しながら検討する。

## Ⅰ 検討対象とする学部・学科

今回の調査では、経営学関係の学部・学科を設置している、東京都・神奈川県下の43大学から'99年度『大学案内』、入学試験関係資料、学部紹介や開講科目一覧関係資料を得た。これらの資料を検討した上で、今回の検討対象を32校に絞った。「表1 検討対象とする大学・学部・学科・コース等一覧」にある大学が、資料を収集した大学名であり、( )を付している大学は、今回の検討対象となっていない大学である。

表1の最初の数字は資料整理上の大学番号であり、本論Ⅱの番号と一致している。大学名・学部名・学科名・コースや履修モデルの順序で整理しているが、対象となる学部について、学部内のすべての学科をあげ、そのうち、直接的な検討対象とする学科に○を付し、太字で表わした。コースや履修モデルは、この検討対象としている学科のなかのコースや履修モデルである。

なお本論Ⅱで、数字と大学名を記して、資料を引用し、まとめているが、その内容は、「全学」「・・・学部」という断りがない限り、検討対象としている学科を示している。

表1 検討対象とする大学・学部・学科・コース等一覧（'99年度）

- 1 青山学院大学・国際政治経済学部：国際政治学科，国際経済学科，○国際経営学科：学部内3コース——グローバル・ガバナンス・コース，ファイナンス・コース，国際コミュニケーション・コース
- 2 亜細亜大学・経営学部：○経営学科：6つの履修モデルコース——企業と産業社会コース，企業経営コース，人と組織コース，マーケティングコース，会計コース，ホスピタリティ・ビジネス特別コース
- 3 桜美林大学・経営政策学部：○ビジネスマネジメント学科：経営政策・管理コース，国際ビジネスコース，経営・経済関係法コース，社会福祉マネジメントコース，ホスピタリティマネジメントコース
- 4 神奈川大学・経営学部：○国際経営学科：マネジメントコース，コミュニケーションコース，環境コース
- 5 関東学院大学・経済学部：経済学科，○経営学科：経営コース，経営情報コース，会計コース，商学コース
- 6 杏林大学・社会科学部：社会科学科：国際政経コース，○経営情報コース，法律政治コース
- (7 慶應義塾大学) (8 國學院大学) (9 国際基督教大学)
- 10 国土舘大学・政経学部Ⅰ部：政治学科，経済学科，○経営学科：経営学コース，会計学コース
- 11 駒澤大学・経営学部：○経営学科
- 12 産能大学・経営情報学部：○経営学科，情報学科：5つのモデルプラン——プラン M1▼経営機能の特定分野に関する戦略・知識・技能を学ぶプラン，プラン M2▼企業経営に関して全般的・総合的に学ぶプラン，プラン M3▼企業経営の国際化の側面について学ぶプラン，プラン M4▼管理システムのデザインおよび改善の方法について学ぶプラン，プラン M5▼情報化に対するユーザサイドからのアプローチの方法を学ぶプラン

- 13 上智大学・経済学部：経済学科，○経営学科
- (14 昭和音楽大学)
- 15 成蹊大学・経済学部：経済学科，○経営学科：両学科にわたる国際社会コース
- 16 成城大学・経済学部：経済学科，○経営学科
- 17 専修大学・経営学部：○経営学科，情報管理学科
- 18 創価大学・経営学部：○経営学科
- 19 大東文化大学・経済学部：経済学科，○経営学科：4つの履修モデルコース——ビジネスコース，会計・財務コース，マーケティング・国際ビジネスコース，マネジメント・インフォメーションサイエンスコース
- 20 高千穂商科大学・商学部：商学科，○経営学科
- 21 拓殖大学・商学部：○経営学科，貿易学科：経営コース，会計コース，経営情報コース，流通コース
- 22 多摩大学・経営情報学部：○経営情報学科
- (23 玉川大学)
- 24 中央大学・商学部：○経営学科，会計学科，商業・貿易学科，金融学科
- (25 帝京大学)
- 26 東海大学・政治経済学部：政治学科，経済学科，○経営学科：経営管理コース，経営情報コース，国際経営コース
- 27 東京経済大学・経営学部：○経営学科，流通マーケティング学科：経営管理コース，企業総合コース，会計コース
- (28 東京農業大学)
- 29 東京理科大学・経営学部：○経営学科：会計学コース，経営管理コース，管理科学コース，経営情報コース
- 30 東洋大学・経営学部：○経営学科，商学科
- (31 二松学舎大学)
- 32 日本大学・商学部：商業学科，○経営学科，会計学科

(33 文教大学)

34 法政大学・経営学部：○経営学科：経営・総合コース，経営・基礎研究コース，経営・情報コース，経営・国際コース

参考・経済学部：経済学科

35 武蔵大学・経済学部：経済学科，○経営学科，金融学科

36 明治大学・○経営学部

37 明治学院大学・経済学部：経済学科，○経営学科：国際化コース，情報コース，環境コース

(38 明星大学) (39 横浜商科大学)

40 立教大学・経済学部：経済学科，○経営学科

41 立正大学・経営学部：○経営学科：戦略経営コース，情報システム学コース，ビジネスコントロールコース，マーケティングコース

42 和光大学・経済学部：経済学科，○経営学科：コーポレート・マネジメント・コース，システム・マネジメント・コース

43 早稲田大学・商学部：○経営コース，会計コース，商業・貿易・金融コース，経済・産業コース，総合・学際コース

---

## II 教育活動の「特色」とその傾向

今回の調査において検討対象とした経営関係学部・学科における教育活動の「特色」の傾向は、次の7点にまとめることができる。

1. カリキュラムの自由性，融通性
2. 少人数教育
3. セメスター制度の導入
4. コンピュータ教育と設備の充実
5. 特徴的な授業や教育実践（現役の企業人による特別講義，インターン

シップ、企業シミュレーション等)

6. 国際交流センター等が中心になって進める全学規模での国際交流の活発化（特に、海外留学と4年卒業の両立）

7. 学部教育に関わる資格取得のためのサポート体制

このような「特色」の全体傾向の中から、第1, 2, 3点について、具体的に述べる。

### 1. カリキュラムの自由性、融通性

この点は、大学設置基準の大綱化の要でもあり、1990年代の半ばから新カリキュラムを実施している学部・学科においては、受験生への大きなセールス・ポイントとして打ち出している点である。

ここでいう「カリキュラムの自由性、融通性」は、けっして多様なコースがあるという意味にとどまるものではなく、学生が選択できる「自由性、融通性」を意味している。この具体例を整理すると次の7点になる。

- ① ある学科に入学後、学科変更することなく、他学科・他学部の専門授業を履修できるよう自由選択科目を多くする。
- ② 副専攻を設けて、これらの専門科目単位をまとまりのある学習成果として認定する。
- ③ コース選択によって履修科目を限定するのではなく、学生がまとまりのある履修をするための一つの目安と位置付けており、コース選択後の関心の変化や学生の進めたい学習とコース内容のずれを学生が修正できる。
- ④ 必修科目は、専門科目のうち、最低限の科目に限定し、学生が選択できる科目の幅を大きくする。
- ⑤ カリキュラム区分の工夫により、旧一般教育科目において、従来の学問区分にとらわれない科目を設定し、問題関心に合わせて、1年次から4年次までのいつでも履修できる。



- ⑥ 専門教育科目については、1・2年次から選択科目を配置し、希望者は早期から専門的な学習を進められる。
- ⑦ 外国語の履修は、第一外国語・第二外国語の区分を取り去り、学生が履修したい外国語を中心に履修できる。

## 2. 少人数教育

検討対象学部のおほとんどが「少人数教育」を学部・学科紹介のキー・コンセプトとしている。これまでの私立大学＝マスプロ教育のイメージを払拭しようとしており、また、高等学校教育まで1クラス単位での教育を受けてきた受験生にとって、「少人数教育」が大きな魅力になるとの判断によるのだろう。『大学案内』では、科目ごとの履修状況に触れているわけではないので、一般科目の状況については今後の調査に譲るが、ここでは、少人数教育を担う科目として演習（ゼミナール）関係科目がクローズアップされている点に注目したい。「大学教授と少人数の学生が身近に語り合う」、「相談相手になる」、「テーマを持った学習をする」等がキャッチフレーズになっている。そして、「ゼミナールは大学教育の要」という位置付けが、検討対象大学の共通認識として示されている。

演習科目は、1年次段階の科目と2年次以降の科目に分けられる。1年次の演習の性格は多様であり、大学教育入門編から、教養ゼミナール、専門ゼミナールの入門編としての性格を持つものまで幅広い。2年次の演習は、大多数の学部において、卒業論文につながる研究の場として位置付けられている。3・4年次の演習や卒業研究の科目はごく一般的に設けられている。

旧来の大学像ならば、演習関係科はすべて必修であり、卒業論文も必修と考えられるのだが、これらがすべて必修の学部は『大学案内』の範囲でわかる限り、ごく少数の大学に限定される。ほとんどの大学が、1年次から4年次まで設定されている演習科目について、選択科目の位置付けであり、必修科目になっている場合も、これらのうち、特定の学年だけを必修にするとい



う学部・学科が多い。

演習によって実践されている「少人数教育」とは、学生が少人数教育を希望するならば、その学生が少人数の演習を受けられる体制を整えているということになる。私立大学の入学定員や教員数の実情から判断すると、多くの大学では、演習（ゼミナール）を選択科目にすることによって、10数名から20名程度の少人数の演習を実現し、維持していると考えねばならない。

『大学案内』のなかから、演習に関わる部分をまとめたものを、「資料1 1年次の演習」「資料2 専門演習」として以下にあげる。大学名は、検討対象の学科やコース等を示している。脚注のかわりに、文末に資料番号とページを付しているが、この見方については本稿末の「資料及び出典一覧」の前書きを参照されたい。

#### 資料1 1年次の演習（'99年度）

---

- 1 青山学院：入門セミナーⅠ・Ⅱ：各学科，コースを問わず，1年次の必修科目。1-99-2-63～68
- 4 神奈川：基礎演習：1年次の必修科目「経営学部では他大学に類を見ない「基礎演習」を開設しています。」「基礎演習では，勉学の基本姿勢の確立や科学的・論理的なものの考え方，さらには学修上の基本的な方法と技術などについて学ぶこと，すなわち必要な情報を探し，資料を読み，他者の意見を聞く力，それをもとにして自ら考え判断し，自らの考えを表現する力（話す力，書く力，伝える力）を養うことを目的としています。たとえば，文章の書き方，まとめ方，資料の探索方法，新聞記事の有効利用の方法などが，これらの目的を具体的に示した授業内容です。」4-99-1-71
- 5 関東学院：教養ゼミナール（4単位）：共通科目の総合科目のなかの1年次の選択科目。5-99-1-64
- 6 杏林：プレゼミナール：「当学部ではこれまでも担任制に代わるものとして，1年間のプレゼミナールを開設していたが，半年集中教育として1専

任教員あたり9名の学生を担当する学期凝縮型のプレゼミナールを開設することにした。これはセメスター制度導入を契機として、これまでの Person to Person 教育をさらに実質的に充実させたいという目的で改正したもの。これによって学生一人ひとりにきめ細かい多方面にわたる指導ができるようになった。」6-99-1-8

「第1・第2セメスターに合わせて40以上もあるプレゼミナールは、社会科学の大きな特徴。1人の担任の先生+少人数の学生で勉強する。第2セメスターには先生もメンバーも変わる。プレゼミナールでの勉強の内容は、学校生活の過ごし方から、各専門分野の基礎学習までバラエティ豊か。合宿やプレゼミ対抗のスポーツイベントもあり、先生や同じプレゼミの仲間とは自然と親しくなれる。第5セメスターからの本ゼミを含めて大学時代に3種類のゼミを経験できるのは杏林大学社会科学部のすごい魅力だ。」6-99-1-27

**12 産能：情報環境演習，経営情報学基礎演習：1年次の必修科目。**12-99-1-24

**15 成蹊：基礎演習：1年次の必修科目。**「プレゼミとも称される「基礎演習」では、2年次からの専門ゼミ「演習Ⅰ」，「演習Ⅱ」に備え、文献の調べ方、論理構築の仕方、ディスカッションの方法などを学びます。テーマは、経済学に限らず、さまざまな分野にわたっています。」15-99-1-26。テーマから判断すると経営学専門教員以外の教員が担当している。12ゼミ。15-99-1-22～27

**18 創価：共通演習：共通科目の学際系科目のなかにある。**18-99-1-36～37

**19 大東文化：基礎演習：1年次の選択科目のなかにある。**19-99-1-38

経済学部では「1年次より少人数制の基礎演習を開講し、教員との親密なコミュニケーションを図りつつ、大学における学習のしかたを身につけることができる。」19-99-1-32

**20 高千穂商科：ゼミナールⅠ（4単位）：1年次からの選択科目。**20-99-1-

「ゼミナールは大学の勉学の真髄といわれています。本学はゼミナール教育を重視し、1年次から4年次まで、さまざまな形のゼミナールを開講しています。」「1年次のゼミⅠ.は必修で、ゼミ教育の入門的役割を果たします。それは2年次からのゼミⅡ.（選択）と3年次からのゼミⅢ.・ゼミⅣ.（選択）へと継続し、一般の講義では得ることのできない、学究への深い満足感を得ることができるシステムとなっています。」「ゼミナールⅠ」テーマと担当教員、概要について紹介がある。さまざまな専門分野の教員がテーマを持って演習を担当している。20-99-1-21～23

- 21 拓殖：1年基礎ゼミナール：選択科目。「幅広い視野，論理的思考，学習意欲の向上など，大学での「学問の学び方」「研究の方法」が少人数で学べる。」21-99-1-9

- 24 中央：基礎演習：1～4年次の選択科目または選択必修科目のようだ。これは科目名ではなく科目群名。科目名は，「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」「簿記演習Ⅰ」「簿記演習Ⅱ」「計量分析演習Ⅰ」「計量分析演習Ⅱ」「数学演習Ⅰ」「数学演習Ⅱ」専門の基本的な力をつけるための演習として位置付けられている。しかも学年を問わない。24-99-1-40

教養演習：商学部の共通科目の課題科目のうちの1科目。選択科目または選択必修科目。24-99-1-39

- 29 東京理科：1年次からの専門教育：概論と演習のセット。「1年次から専門基礎の教育を始め，会計学概論，管理科学概論，情報処理概論，経営学概論にそれぞれ演習を取り入れ，実践的な教育を徹底しています。」29-99-1-46

- 30 東洋：演習Ⅰ（4単位）：1年次の選択科目。1年次の演習科目も2年次以降の演習と同様に，研究的な性格のものである。「ゼミナールは1年次から開設され，グループ研究や討論を中心に演習が行われています。」30-99-1-73，75

**34 法政：**「本学では主に1・2年次で履修する教養的な科目や基礎的な専門科目から、各学部・学科の専門科目にいたるまで、少人数教育を重視しています。とくに教養的な科目では、いわゆるマスプロ授業ではなく、研究発表と討論を主体とした授業を行う科目が多くなっています。こうした授業スタイルは、とくにゼミナール(演習＝略してゼミ)で多く見られます。」

34-99-1-17

**34 法政：経済学部：経済学科：入門ゼミ：1年次の必修科目。**「1年次の前期に置かれている「入門ゼミ」は、入学次の学生諸君の不安を和らげ、大学での生活と勉学にスムーズに導入することを目的とした、いわば大学入門講座です。1クラス45人のクラス単位で実施され、専任教員が大学で行う学問の方法をわかりやすく説明します。これはまた、図書館やその他の大学の諸施設の利用法、文献の検索方法、データの利用法、レポートの書き方、討論の進め方、プレゼンテーションの方法などを学ぶ場でもあります。クラス担任は勉学や生活上での良き相談相手であり、時には緑陰の散歩やソフトボールなどを共に楽しむこともあります。また、外国語の授業もこのクラス単位で行われます。」 34-99-1-66

**35 武蔵：教養ゼミナール**（1～4年次，4単位）：基礎教育科目の基礎科目のなかに、必修科目として置かれている。35-99-1-27 経済学部の教員が担当しているようだ。(35-99-1-36：経済学部専任教員紹介)内容についてはわからないが、2点の写真がある。「合同ゼミ（教養ゼミナール）」(35-99-1-10)，と「教養ゼミナール特別実習」(35-99-1-12)

**36 明治：教養演習：教養科目群の1・2年次の選択科目。** 36-99-1-65

「1年次には「教養演習」でゼミという勉強の形式を学び」 36-99-2-10

**40 立教：基礎演習：**「新入生に対する経済学学習のオリエンテーションです。ゼミナール形式をとり、基礎的な文献の講読を通じて経済学および社会科学に対する理解を深めます。」 40-99-1-41

**41 立正：オリエンテーションⅠ～Ⅳ：1年次からの科目。**演習形態の授業か

どうかはわからない。41-99-1-29

42 和光：プロゼミ：「1年次のプロゼミは経営学を学ぶための導入部にあたる授業で、その後の学習の基礎となります。」42-99-2-20

43 早稲田：総合教育科目演習（4単位）：1年次から履修できる総合教育科目のIV類のなかにある。内容等はわからない。43-99-1-62

---

## 資料2 専門演習

---

1 青山学院：「演習Ⅰ」（3年次）、「演習Ⅱ」（4年次）：各学科、各コースの選択科目。1-99-2-63～68

2 亜細亜：ゼミナール（3・4年次）：専門選択科目。2-99-1-30～31

3 桜美林：ゼミもしくは研究テーマ：全学的に3年次で「ゼミもしくは研究テーマを設定し、少人数クラス構成のなかで専門コース能力を磨いていきます。」3-98-1-12

4 神奈川：「演習Ⅰ」（2年次）、「演習Ⅱ」（3年次）、「演習Ⅲ」（4年次）：各年次の必修科目。4-99-1-73, 75

5 関東学院：「ゼミナールⅠ」（2年次，2単位）、「ゼミナールⅡ」（3年次，4単位）、「ゼミナールⅢ」（4年次，4単位）：選択・必修の区分は不明。5-99-1-30

6 杏林：「ゼミナール」：「今回の Semester 制度の導入によって、多くの学生が実質的に専攻分野を決定する時期である2年次の後半、つまり第4学期からスタートすることが可能になった。開講時期を早めることによりゼミナールの単位数は従来の8単位から卒業研究（卒業論文）を含め14単位に増え、ゼミナールを実質的に重視することができるようになった。」6-99-1-8

10 国士舘：「経営学演習」（2年次後期）、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」（3年次）、「演

- 習Ⅲ（卒業論文を含む）」（4年次）：各年次とも選択科目。10-99-1-38～39
- 11 駒澤：「演習Ⅰ」（2年次），「演習Ⅱ」（3年次），「演習Ⅲ」（4年次）：専門科目の選択科目。経営学専門教員のみが担当。11-99-1-45～46
- 12 産能：「演習」（3年次，4単位），「卒業研究」（4年次，6単位）：「履修を強く薦める科目」。12-99-1-25，32～33
- 13 上智：ゼミナール（3・4年次）：「両学科のゼミは相互乗り入れが可能で，学生は互いに刺激し合いながら，それぞれの自主性を育んでいます。」「3・4年次の2年間にわたる10人前後のゼミは，最も重要な科目の一つです。」選択必修の区分は不明。13-99-1-30，32
- 15 成蹊：「演習Ⅰ」（2年次），「演習Ⅱ」（3年次）：専門科目の必修科目。「卒業論文演習」（4年次）：専門科目の選択科目。「演習Ⅰ・Ⅱ」は，ひとつのテーマに沿って専門分野をより深く学ぶゼミです。内容や進行方法は主宰する教員によって異なりますが，多くのゼミで，グループ単位・個人単位のレポート作成，発表，討論が実施されます。またほとんどの場合，「演習Ⅰ」で選んだテーマは，同じ指導教員のもと，「演習Ⅱ」でも引き続き取り組むこととなります。」2年次…12ゼミ，3年次…11ゼミ，4年次…12ゼミ。15-99-1-22～27
- 16 成城：「2年次ゼミナール」「3年次ゼミナール」「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」：専門科目の必修科目。「2～4年次必修のゼミナールでは，教員と学生がコミュニケーションを図りながら，少人数のクラスでテーマを絞り込んだ学習を展開。他大学との研究発表，企業調査や企業との共同研究なども活発に行われており，経営学科で学ぶ大きな魅力のひとつが，この生き生きとしたゼミナールにあります。」16-99-1-21
- 17 専修：「ゼミナール」（3年次・4単位），「ゼミナール」（4年次・4単位），「卒業論文」（4年次・4単位）：専門科目の選択科目の「共通」科目。17-99-1-17
- 18 創価：「基礎演習」（2年次・2単位）：専門科目の選択科目。18-99-1-4



「**演習Ⅰ・Ⅱ**」(各2単位, 3年次), 「**演習Ⅲ・Ⅳ**」(各2単位, 4年次):  
専門科目の必修科目。18-99-1-4 「ゼミナール一覧」を見ると, 経営学専  
門のゼミのみ。18-99-1-40~41

**19 大東文化:** 「**経営学演習**」(3・4年次): 選択科目。「基礎演習を1年次  
に, 専門演習を3~4年次に開講。多彩なテーマから, 興味ある分野を集  
中して学べます。演習の多くは教員の研究室で行われ, 教員と学生の「ふ  
れあい」の場となっています。」19-99-1-38。ゼミナール一覧あり。経営  
学, 情報科学専門ゼミのみ。9-99-1-40

**20 高千穂商科:** 「**ゼミナールⅡ・Ⅲ・Ⅳ**」(2・3・4年次): 選択科目。「ゼ  
ミナールは大学の勉学の真髄といわれています。本学はゼミナール教育を  
重視し, 1年次から4年次まで, さまざまな形のゼミナールを開講してい  
ます。」「1年次のゼミⅠ. は必修で, ゼミ教育の入門的役割を果たします。  
それは2年次からのゼミⅡ. (選択) と3年次からのゼミⅢ. ・ゼミⅣ. (選  
択) へと継続し, 一般の講義では得ることのできない, 学究への深い満足  
感を得ることができるシステムとなっています。」「ゼミナールⅡ・Ⅲ・Ⅳ」  
テーマと担当教員, 概要について紹介がある。ゼミごとに, 募集年次が設  
定されており, あるものは, 「2年次」, 「2~4年次」 「3・4・年次」な  
ど。商学群・会計学群・経済学群・法学群・総合群の区分がある。20-99-  
1-26~28

**21 拓殖:** 「**プロゼミナール**」(2年次): 各コースともに選択科目。

「**3年ゼミナール**」: 必修科目, 「**4年ゼミナール ゼミナール論文**」: 選択  
科目。「1年次に選択した基礎ゼミナールをさらに発展させたい, 3年次か  
ら必修のゼミよりも先に専門を学びたい, 専門分野の研究に時間をかけた  
いなら, プロゼミナールを選択しても。」21-99-1-9

**22 多摩:** 「**基礎演習**」(2年次春): 必修ではない。

「**演習Ⅰ**」(2年秋), 「**演習Ⅱ**」(3年春), 「**演習Ⅲ・企業実習**」(3年秋),  
「**演習Ⅳ**」(4年春), 「**演習Ⅴ・卒業課題制作**」(4年秋): 「一般春コース」



の場合、「演習V」または「卒業課題制作」のどちらかが必修。カリキュラム上、演習関係は「創出」に分類されている。22-99-1-9~10, 22-99-1-12

**24 中央：**「演習Ⅰ」（3年次）、「演習Ⅱ 演習論文」（4年次）：経営学科の科目群のうちの専門演習。選択科目または選択必修科目のようだ。24-99-1-40

**26 東海：**「経営学演習Ⅰ」（4単位・原則として3・4セメスター）、「経営学演習Ⅱ」（4単位・原則として5・6セメスター）：必修科目。「経営学総合演習」（4単位）：選択科目。26-99-2-8~9, 11

**27 東京経済：**「演習」（2年次~）、「研究論文」（3年次~）：いずれも関連履修科目に位置付けられている。なお、カリキュラムの科目分類は重点履修科目、選択履修科目、関連履修科目からなる。「演習」は2年次からの展開科目の関連科目にあり、「経営学演習」「会計学演習」「商学演習」「経済学演習」「法学・政治学演習」「社会学演習」がある。「研究論文」は、3年次からの展開科目の関連科目である。27-99-1-23

「演習」（2年次~）：総合教育科目の分野で設けられている。27-99-1-23

**29 東京理科：**「ゼミナールⅠ」（2年次）：コースごとの選択科目。

「ゼミナールⅡ」（3年次）：必修科目。「少数の学生が1人の指導教授のもとに集い、直接経営学に関する研究指導と教育を受けることができます。」

「卒業研究」（4年次）：必修。29-99-1-46

**30 東洋：**「演習Ⅱ」（2年次，4単位）、「演習Ⅲ」（3年次，4単位）、「演習Ⅳ」（4年次，4単位）、「卒業論文」（4単位）：すべて選択科目。「ゼミナールの活動は、教室の外でも盛んに行われています。学部内では学生と教員によって組織される「経営学会」の主催による研究発表大会が年に1回開かれています。また学内にとどまらず、ほかの大学のゼミナールとの交流や研究活動も行われています。」30-99-1-73, 75

**32 日本：**「ゼミナールⅠ・Ⅲ」「卒業論文」：専門教育科目（各学科共通）のなかにゼミナール部門がある。いずれも☆はついていない。選択科目だろ

う。32-99-3-5

**34 法政：「演習」**(2年次， 4 単位)：全コース選択科目。「**演習**」(3・4 年次， 6 単位)：全コース選択科目。34-99-1-61「海外で研究活動したり海外合宿を行うゼミも」「文系学部ゼミナール(演習)の開講年次」表あり。34-99-1-17

**34 法政：経済学部：経済学科**(参考)：「**プレゼミ**」(2 年次後半)：選択科目。「2 年次後半に置かれている「プレゼミ」は，20名以下のゼミナール(演習)形式で行われるもので，プレゼンテーションの仕方，論文作成技術，資料収集や調査の方法などを指導し，3 年次からの「ゼミナール」への架け橋の役割を果たします。学生諸君は，自らの関心に従って，開講されている多くのプレゼミの中から自由に一つを選択することができます。「入門ゼミ」とは異なり，同じような問題意識を持った仲間と勉学の機会をもつことができるのが「プレゼミ」の特色です。経済学の分野だけでなく，情報，文化，環境，歴史，哲学，自然科学，語学，数学，文学についての多彩なメニューが揃っています。」34-99-1-66～67

「**ゼミナール**」(3・4 年次)：選択科目。

「3・4年次には，2 年間を通してゼミナールが設置されています。個々では各教員の専門分野に応じた高度な教育と研究が行われます。ゼミナールでの2 年間の学習は，学生生活の中心をなすものであり，諸君の人生にとって大きな意義をもつことになるでしょう。ゼミ合宿，進級論文や卒業論文の作成，数度に及ぶ報告やプレゼンテーション，ディベート，コンパ，等などを通じて，教員やゼミナール仲間(先輩・後輩)との深い信頼感が築きあげられ，経済学部生としての自覚と自信が生まれます。」34-99-1-66～67

**35 武蔵：「専門ゼミナール第1部」**(2 年次， 4 単位)：必修科目。「**専門ゼミナール第2部**」(3 年次， 4 単位)：選択必修科目。「**専門ゼミナール第3部**」(4 年次， 4 単位)：選択科目。35-99-1-31「96年度からスタートした

新しいカリキュラムでは、各人が自分自身の関心や興味を大切にし、主体的に学ぶことができるように、必修科目を弾力化し、科目の選択の幅を広げました。(略)またゼミナール制度をより一層充実し、4年間にわたって希望するすべての学生が履修できるようにしました。ゼミナールを中心に、関連する科目を有機的に結びつけて学習を進めることによって、体系的な専門知識を身につけることができるように科目が配置されています。」35-99-1-26

- 36 明治：「演習Ⅰ」(2年次)、「演習Ⅱ」(3年次)、「演習Ⅲ(卒業論文指導)」  
「演習Ⅲ(卒業論文指導)」(4年次)：いずれも選択科目。36-99-1-63

「経営学部 of 学生生活の中心はゼミナールにあるといえます。1年次には「教養演習」でゼミという勉強の形式を学び、2年次から希望者の9割が所属可能な専門ゼミへ進みます。15～20名の同級生が、ゼミナール合宿、学内発表会、インナー(関東ブロック大会)、インター大会(全国大会)、論文応募、OB会、スポーツ大会などの充実した活動を行い、多くの先輩・友人と出会う貴重な場となっています。」36-99-2-10

- 37 明治学院：「演習A(1)(2)」 「演習B」 「卒業論文」：C群科目。いずれも選択科目。学年配当等は不明。37-99-1-42

- 40 立教：「ゼミナール」(2～4年次)、「ゼミナール」(単年度)(3,4年次)：自由選択科目。40-99-1-45「各教員の専門分野のテーマのもとに2年次から4年次までの3学年がともに学びます。1つのゼミナールは20名程度の少人数で、熱気に満ちた討論が繰り広げられ、フィールドワークもふまえて経済・経営をいきいきと語る力を身につけていきます。」40-99-1-41

- 41 立正：「ゼミナール1・2」(2年次～)、「ゼミナール3・4」(3年次～)、「卒業論文」「チュートリアル1・2」(4年次)：必修・選択科目の区別は不明。41-99-1-29。「2年次のゼミでは、社会科学的な思考法を養い、レポートの作成方法や討論・発表の仕方など、経営を学ぶための基礎知識を修得。3～4年次のゼミでは、各自の研究テーマを同じ指導教員のもと、

2年間にわたって専門的に学ぶことができます。3年間の一貫した少人数教育により、教授やゼミ生、OBとの間に深い人間的・学問的交流が生まれます。」41-99-1-28

42 和光：「ゼミナールⅠ・Ⅱ」（3・4年次）：選択科目。42-99-2-21

43 早稲田：「専門教育科目演習」（3・4年次：4単位）：専門教育科目として、コースにかかわらず履修できる。必修ではないようだ。43-99-1-62  
「商学部の特徴は演習（ゼミナール）の充実にあるといわれています。ゼミは少人数教育によって高度な教育を行う場であるとともに、教員と学生、学生相互の親しい接触の機会を提供するところです。大学と終生のつながりはゼミの絆によるといっても過言ではありません。商学部には3年次生および4年次生を対象とするゼミがコース制に対応して総計で130ほど設置されており、また1年次生および2年次生対象の演習もあります。」43-99-1-61  
「コース制：5コースの選択は学生が2年次の秋学期に公募する演習（ゼミ）の属するコースによって決定します。」43-99-1-61

---

### 3. セメスター制度

『大学案内』で学部教育を紹介するときの「大きな目玉」と位置付けることができるほどに、セメスター制度を実施している学部・学科では、この点を強調している。各大学の'99年度カリキュラムをみると、多くの大学では従来4単位であった科目がⅠ・Ⅱに分割され、各2単位科目となっている。しかし、半期ごとに単位を認定するかどうかはわからないので、今回の報告では、「セメスター制を実施」と明記している場合のみを、セメスター制度実施学部・学科とした。これらの実施形態についてみると、大学全体がセメスター制度を実施している場合と、一学部が他学部在先だって、セメスター制度を実施している場合がある。さらに、セメスター制度を実施している学部・学科の開講科目についてみると、前期・後期の開講科目が同一のケースはまれ

であり、むしろ主要科目は前期・後期に開講するが、選択科目は前期・後期のどちらかで開講しているケースが一般的である。また、語学科目や演習(ゼミナール)の半期科目化も実現されており、これらの科目は、1年間をⅠ・Ⅱに分けるか、半期の1週間に2回開講するという方法で構成されている。

各大学の『大学案内』で述べられているセメスター制の利点は次のようにまとめることができる。

- ① 学生が、在学中でありながら全く授業を取らない学期をもつことができる。これにより、学生の自由なチャレンジが可能になる。
- ② 科目の学年配当の自由化とも重なって、1科目を履修できるチャンスが増えて、多い場合は8回になる。
- ③ 1学期に履修する科目数が減るので、余裕を持った予習・復習ができる。
- ④ 海外留学や外国人留学生の受入れがスムーズになり、留学先(提携校等)で修得した30単位が卒業単位として認定されることと合わせて、在学4年間での卒業がより現実的になる。
- ⑤ 秋季入学をスムーズに実施することもできる。

各大学のセメスター制実施に関わる状況と説明等をまとめたものが、「資料3 セメスター制度の導入」である。資料1・資料2と同様に大学名は、原則的に検討対象とする学部・学科を示している。

### 資料3 セメスター制度の導入('99年度)

---

- 1 青山学院：各科目Ⅰ・Ⅱが原則となっているが、セメスター制度については言及されていない。1-99-1-40～41, 54, 1-99-2-63～68
- 2 亜細亜：原則的にセメスター制を導入。2-99-1-16, 2-99-1-29
- 4 神奈川：多くの科目がⅠ・Ⅱに分かれており、半期科目になっているが、セメスター制についての言及はない。4-99-1-70～73

**6 杏林：**1998年4月から8セメスター制を実施。各セメスターで履修できる単位の上限は24単位。下限は設けていない。 $124\text{単位} \div 24\text{単位} = 5.2$ 。6セメスターの講義を受けた時点で卒業必要単位数はクリアできる。「つまり残りの2学期は特別プレゼミナールにさえ登録しておけば、すべての時間を自分の大学生活に合わせて過ごすことが可能なのだ。しかもこの空き学期は、どの時期に充てることもできるので、海外留学、ボランティア、スポーツ、実務体験あるいは就職活動などの、目的に合わせ、自分自身で個性的な大学生活をプランニングすることができる。」6-99-1-8

前期・後期に分かれて授業がある科目について、「科目名にⅠ及びⅡが付される科目は両科目の連続履修を条件とし、A及びBが付される科目は連続履修を条件としない科目である。」という区別をしている。6-99-1-28

**12 産能：**毎年各学期のはじめに履修登録をする(制限単位：前・後それぞれ24単位)、1回の授業は80分。前期(4月から7月)、後期(9月から12月)。ほとんどの授業が前学期または後学期で修得できる。科目によっては1年間で修了するものもある。12-99-1-24～25, 30

**18 創価：**1999年度からセメスター制の導入。演習関係も前期・後期に分かれている。18-99-1-4, 18-99-1-34

**19 大東文化：**語学も含め半期科目が多く、Ⅰ・Ⅱ、A・Bという表記が多い。19-99-1-38 セメスター制度についての明記はない。

**22 多摩：**セメスター制。前期にⅠ、後期にⅡという形。カリキュラムの具体的な例は、「一般春コース」のものがあげられている。演習もすべて半期科目。22-99-1-9～10

**26 東海：**全学。「特色1 セメスター制度 学びのスタイルコミュニケーション個人流 学生の自己実現をサポート・個々の意思に合わせて履修が自己設計できる」

春学期(4から9月)秋学期(10から3月)各15週「履修申告の機会が倍増するわけですから、個性的な履修計画がたてやすくなるということで



す。」「学生は自分の学修段階や志向するものを自ら見つめながら軌道修正し、科目を選択することで、自分自身の方向性を位置づけていくことができます。」卒業のためには124単位必要。1セメスターに24単位を上限として履修できる。自主的に空セメスターを作ることも可能。「こうした時間を利用して、海外留学や社会活動に参加することも認められており、留学先での修得単位を卒業要件単位として換算できる可能性もあります。」26-99-1-6

「99年度から空セメスターを利用しての学園内留学が可能に」セメスター制度導入のその他のメリット。今まで1年間かかって学修していたものが、週2回の授業になり半年間で履修。そのため、集中的に勉強でき、同時履修科目も少なくなるので、学生が自主学修に割く時間を作りやすくする。

- ・端的な利点。必修科目も8回履修のチャンス。リカバリーが早期にできる。
- ・他のキャンパスでの履修も、空きセメスターを利用して可能になる。
- ・今後も多様な計画あり。26-99-1-6～8

**30 東洋：**セメスター制度を実施している。30-99-1-4

**32 日本：**セメスター制度を実施している。32-99-1-6

**37 明治学院：**経営学科では準セメスター制を実施。全学でセメスター制度を実施。「国際学部では '98年度4月からセメスター制を実施し、他の4学部も移行措置として準セメスター制を開始します。いずれは全学部が、海外の大学と同じ完全セメスター制となります。」37-99-1-13～14

**40 立教：**全学共通カリキュラムでは、セメスター制を新たに採用している。40-99-1-11

**43 早稲田：**「セメスター制：商学部の学期は4月～7月の春学期と9月～2月の秋学期です。各学期ごとに科目を選択・登録し、1科目につき週2回の授業で、半年間で集中的に学ぶことを原則としています。予習、復習の



効率化、時間の有効利用、留学に便利、といったメリットがあります。』43

-99-1-61

---

## む す び

本稿では、'99年度『大学案内』を資料として、経営学関係学部・学科の「特色」とその傾向を把握した。複数の類似の学部・学科を並行して検討することによって、各大学の『大学案内』において「特色」として強調されている点が、むしろ共通点となって浮かび上がってきた。

大学審議会の答申とそれに基づく大学設置基準大綱化の趣旨に即しながら、様々なニーズを持つ学生を受け入れる体制づくりと同時に、激変する社会の中で企業人に求められている力を育てる体制づくりのために、どれだけ魅力ある教育活動を形成するか。この問いに対する各学部・学科の模索が教育活動の「特色」となって表れている。大学ごとに様々な取り組みがあるが、一言でいうならば、学生が目的に応じた学生時代の過ごし方を選択できる幅を広げるための様々な方法が、大学・学部・学科の「特色」としての価値をもつようになっている。それゆえ、今後の大学には、その方法の成果に対する責任ある対応と、柔軟な修正力がより一層求められるのであろう。

今後の研究課題として、まず、'99年度の『履修要覧』にもとづいて、各学部・学科ごとの「特色」の具体化の実際を調べる。さらに各大学・学部運営の基盤となっている諸条件を明確にしながら、各大学の教育理念や学部・学科の教育目標と、カリキュラムの関係について研究を進めたい。

---

### 資料及び出典一覧

以下の資料の書名は、まず、背表紙の書名から採り、背表紙に書名がない場

合には、表表紙の書名から特定した。整理番号の最初の数字は、大学名を五十音順に並べたものであり、2番目は資料に付されている年度、3番目は資料の種別によって、大学案内関係は1、入学試験情報中心の資料は2、その他、学部紹介、授業科目一覧等は3とした。なお、本論の脚注がわりの表記の4番目の数字は、各資料のページを示す。

- 1-99-1 : 『青山学院大学 進学案内 1999』
- 1-99-2 : 『青山学院大学 進学資料 1999』
- 2-99-1 : 『1999 大学案内 Asia University・Asia University Junior College』
- 3-98-1 : 『OBIRIN 桜美林大学・桜美林短期大学 1998 University & Jr. College Campus Guide』
- 4-99-1 : 『The Way FROM KANAGAWA UNIV. FOR 1999』
- 5-99-1 : 『KGU GUIDE BOOK 1999 関東学院大学』
- 6-99-1 : 『1999 杏林大学 進学ガイド』
- 10-99-1 : 『大学案内 1999 国士舘大学 国士舘短期大学』
- 11-99-1 : 『KOMAZAWA VOICE 1999 KOMAZAWA UNIVERSITY AND KOMAZAWA JUNIOR COLLEGE』
- 12-99-1 : 『SANNO ADMISSIONS 1999』
- 13-99-1 : 『Sophia University Guidebook 1999』
- 15-99-1 : 『SEIKEI FIELD 1999 成蹊大学』
- 16-99-1 : 『成城大学 成城大学短期大学部 1999 大学案内』
- 17-99-1 : 『SENSHU UNIVERSITY 1999 「自分の坂」を上る。専修大学』
- 18-99-1 : 『Open Your 21 Century at SOKA 創価大学／創価女子短期大学 キャンパスガイド 1999』
- 19-99-1 : 『1999 CROSSING DAITOBUNKA UNIVERSITY』
- 20-99-1 : 『高千穂商科大学 TAKACHIHO UNIVERSITY 1999 大学案内』
- 21-99-1 : 『1999 Takushoku University Passport 拓殖大学』
- 22-99-1 : 『世界を手に入れるために 多摩大学』
- 24-99-1 : 『CHUO UNIVERSITY 1999 INFORMATION 中央大学』
- 26-99-1 : 『1999 進学ガイド PERFECT 東海大学』
- 26-99-2 : 『1999 東海大学 政治経済学部 経営学科』

- 27-99- 1 : 『SPACE・1999 東京経済大学 東京経済大学短期大学部』
- 29-99- 1 : 『SCIECE UNIVERSITY OF TOKYO 1999』
- 30-99- 1 : 『TOYO UNIVERSITY 1999 GUIDE BOOK』
- 32-99- 1 : 『総合大学の理想像をめざす 日本大学 1999』
- 32-99- 3 : 『1999 日本大学 授業科目一覧』
- 34-99- 1 : 『HOSEI UNIVERSITY 1999』
- 35-99- 1 : 『Musashi University '99 大学案内』
- 36-99- 1 : 『明治大学 1999 GUIDE BOOK』
- 36-99- 2 : 『明治大学経営学部 '99 学部案内』
- 37-99- 1 : 『明治学院大学 '99 大学案内』
- 40-99- 1 : 『立教大学』
- 41-99- 1 : 『ARCH 1999 RISSHO UNIVERSITY』
- 42-99- 2 : 『和光大学 受験ガイド 1999』
- 43-99- 1 : 『1999 早稲田大学入学案内』